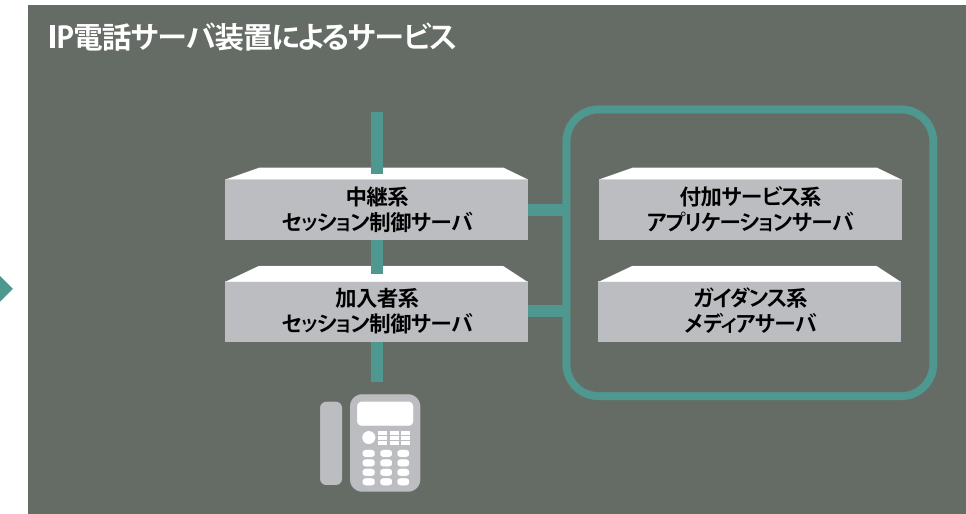
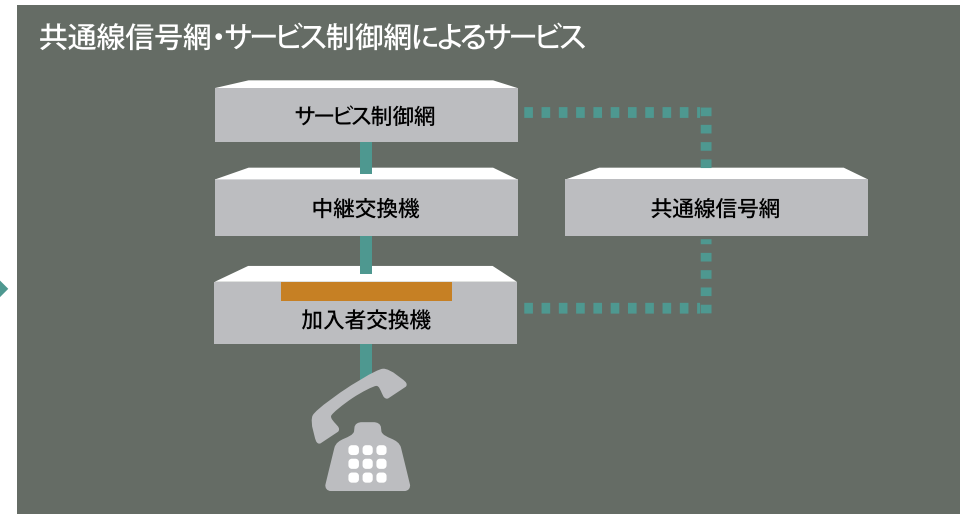
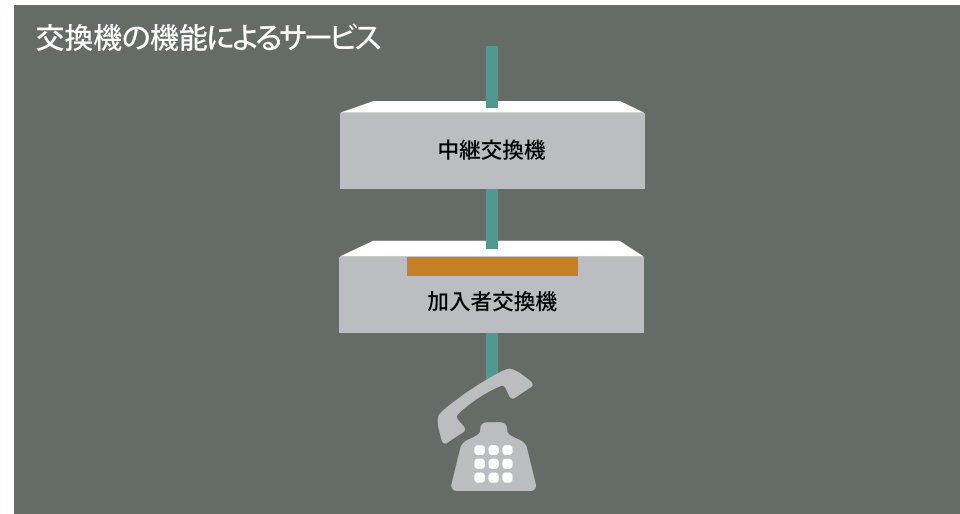


短縮番号など簡単なものから始まった電話の高度サービスは、クレジット通話から、フリーダイヤルへ、更にダイヤルQ2などへと発展してきた。それらを実現したのは、先ず交換機への機能追加、次いで交換機間で選択情報や制御情報をやりとりする共通線信号方式であり、更にサービス情報の管理を専門に担う制御網を中枢とするINの機能であった。電話網全体がソフトウェアで働く巨大な知能となっていた。



接続・通話という基本サービスに加えて、便利な機能を提供するのが高度電話サービス。プッシュホンによる短縮ダイヤルサービスのような初期のサービスは、交換機への機能の追加で行われた。機能上の限界もあり、交換機の数が多いため運用の手間もかかった。

通話信号とは別に、制御信号を交換機の間でやりとりする共通線信号方式が登場すると、機能追加は容易になった。更に、サービス制御網やさまざまなデータベースが加わって、個別のユーザーの求めるところに、きめ細かく対応する各種のサービスが可能になった。

インターネットやIP網の発展により、IP技術を基盤としたサーバ装置とソフトウェアを使用して、IP電話サービスが提供可能となった。

